

「並行在来線(金沢・福井県境間)の経営・運行に関する基本方針(案)」
について

- 1 経営主体
- 2 運行計画
- 3 施設・設備
- 4 組織体制
- 5 国やJR西日本に対する支援の要請
- 6 利活用促進

1 経営主体

基本方針

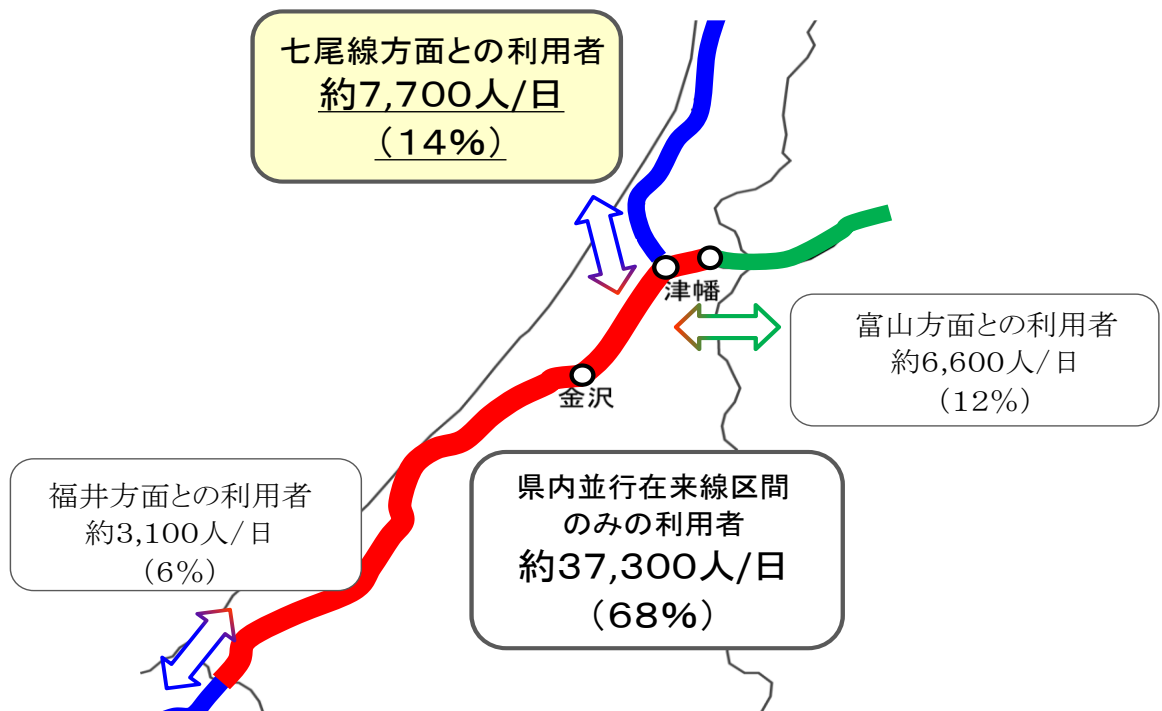
金沢以東区間の経営主体であるIRいしかわ鉄道は、既に鉄道の運営に必要な技術や運営体制を有していることから、IRいしかわ鉄道が金沢以西区間を金沢以東区間と一体で経営する。

※IRいしかわ鉄道は、開業以来、鉄道運転事故ゼロを継続(衝突、脱線、列車火災など)

基本方針

本県並行在来線区間は、沿線住民だけでなく、JR七尾線の利用者を含め、広く県民が利用する区間であることを踏まえ、県全体で並行在来線を支えることとし、支援のあり方を検討する。

【県内並行在来線区間の利用実態 (H29 旅客流動調査、H30 需要予測調査)】



<参考：金沢以東区間の経営スキーム（オール石川で並行在来線を支える体制）>

○出資 20 億 600 万円（県 14 億円、市町 4 億円、民間 2.06 億円）

○運行支援基金

総額：30 億円程度（県 15 億円、市町 15 億円）

用途 乗継割引支援、運賃値上げ抑制、開業後投資・災害復旧等

2 運行計画

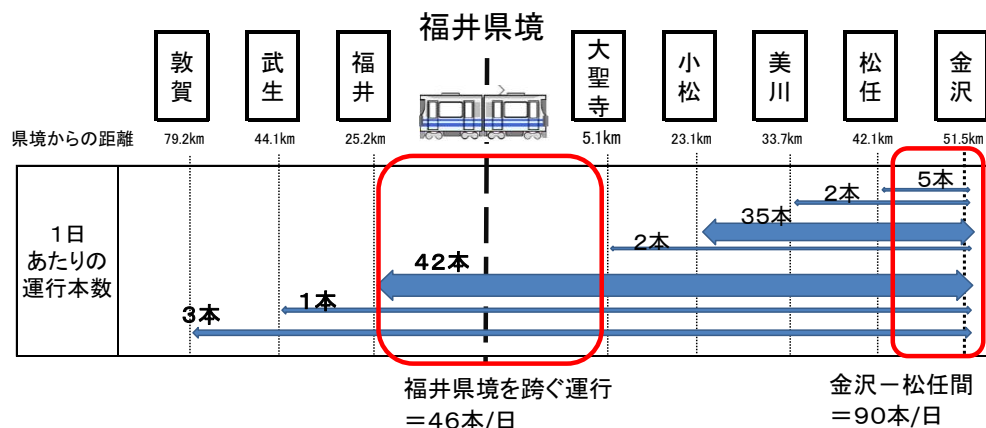
基本方針

普通列車の利用実態に即した運行を基本としながら、以下の事項を踏まえ、利便性の高いダイヤを設定する。

- ① JR西日本による現行の運行本数を基本とした上で、通勤・通学など地域事情に配慮した運行計画とする。
- ② 県境を跨ぐ利用者の利便性を確保するため、福井県会社と車両の相互乗り入れを行うこととし、福井県と協議を進める。

【JR西日本の運行状況（H31. 3. 16 改正後ダイヤ）】

- ・ 本数が最も多い金沢－松任間で1日あたり90本
- ・ 石川・福井県境を跨ぐ列車が1日あたり46本



（県境を跨ぐ利用者は約 3,100 人/日（H29 旅客流動調査、H30 需要予測調査））

<参考：金沢以東開業時における主なダイヤ編成の工夫>

- ① 開業前の普通列車の運行本数の確保を基本に、通学・通勤に配慮したダイヤ編成や、金沢駅発の最終列車の発車時間の繰り下げを実施
 - ・ 普通列車運行本数（開業前）110本 →（開業後）112本
 - ・ 金沢駅発最終列車を七尾、富山方面ともに22時台から23時台に繰り下げ
- ② 新幹線や特急列車との乗り継ぎ利便性の確保
 - ・ 始発・最終のかがやきに接続する列車を設定
- ③ あいの風とやま鉄道と金沢駅－富山駅間の相互直通乗り入れを実施
 - ・ 経営分離前と同様に列車を乗り換えることなく金沢・富山間の利用が可能

基本方針

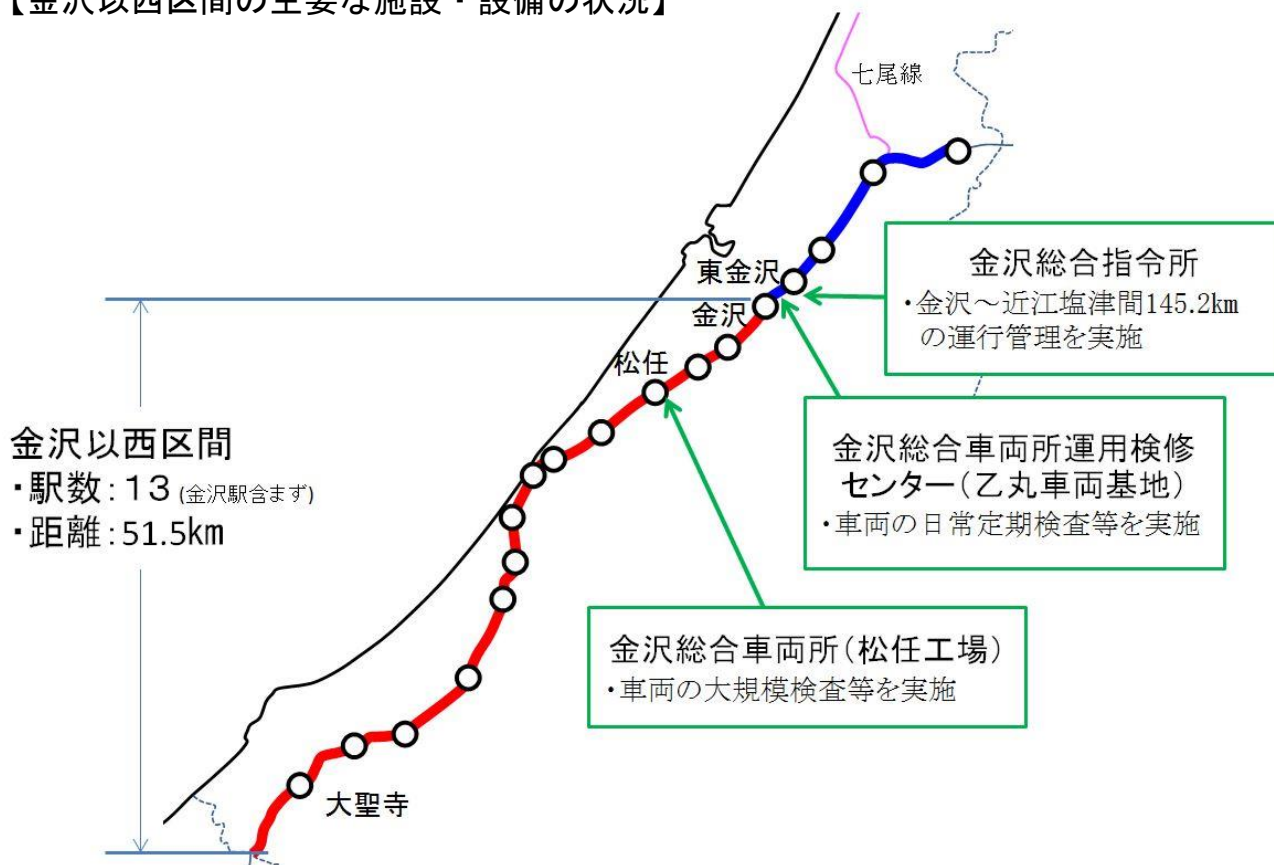
地域公共交通としての役割に加え、新幹線との接続による観光需要に対応するため、JR七尾線及びびのと鉄道との連携にも配慮した運行計画とする。

3 施設・設備

基本方針

JR西日本からの譲渡資産を最大限に活用することとし、JR西日本に対し、鉄道資産の譲渡や施設の修繕等について最大限の協力と支援を要請するとともに、新たな設備投資は、運行計画に見合ったものとする。

【金沢以西区間の主要な施設・設備の状況】



【運用車両】

区分	JR北陸本線		(参考) IRいしかわ鉄道線
	敦賀～金沢間	小松～金沢間	金沢～富山間※
形式	521系	413系	521系
編成数	30編成	2編成	5編成
基本編成	2両	3両	2両
定員	約250名	約360名	約250名
運用区間	敦賀～金沢間	小松～金沢間	金沢～富山間※

※あいの風とやま鉄道と金沢・富山間で相互乗り入れ

4 組織体制

基本方針

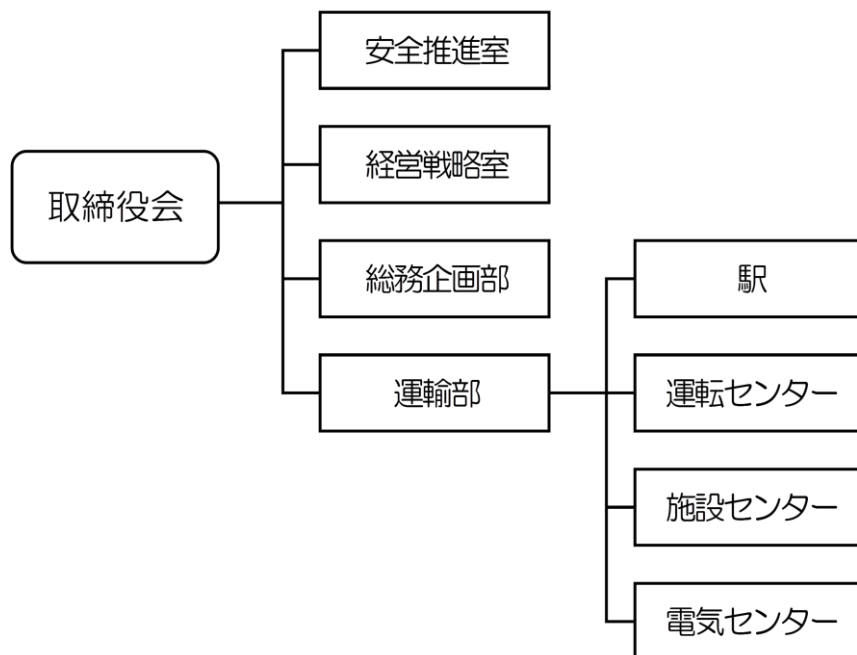
本県並行在来線区間は、JR七尾線や他県三セク線の列車、さらにはJR貨物の貨物列車などの運行が輻輳する区間であるため、運行の安全性・安定性の確保を最優先としつつ、出来るだけ簡素な組織体制を検討する。

【並行在来線区間の1日あたり列車運行本数】

区間	普通列車	特急列車 (七尾線直通)	貨物列車	合計
金沢以東区間	112本	12本	24本	148本
金沢以西区間	90本	0本	24本	114本

※ H31.3.16 改正後ダイヤで定期列車(平日)の運行本数が最大となる区間を集計

<参考：IRいしかわ鉄道の組織体制（H31.4.1 現在）>



5 国やJR西日本に対する支援の要請

基本方針

国に対し、設備投資や運行経費に対する財政支援制度の拡充や十分な予算枠の確保などを要請する。

【要請する主な事項】

- ・ 並行在来線存続のため、新幹線貸付料の活用や貨物調整金制度の見直しなど幅広い観点からの財源確保の方策も含め、新たな仕組みを構築すること
- ・ 設備投資に対する支援制度を拡充するとともに、十分な予算枠を確保すること
- ・ 経営維持のための赤字補填・運営費補助等の財政支援制度を創設すること

基本方針

JR西日本に対し、車両を含めた鉄道資産の譲渡や整備・修繕、専門的技術・経験を有する要員の確保など最大限の協力と支援を要請する。

【要請する主な事項】

- ・ 鉄道資産の低廉な価格での譲渡や譲渡前の修繕・更新工事の前倒し、不要資産の分割・撤去等について最大限の協力と支援を行うこと
- ・ 車両については、現行の運行本数を維持するために必要な車両数を確保し、低廉な価格で譲渡すること。
- ・ 運行の安全性・安定性を確保するため、専門的技術・経験を有する要員を派遣するとともに、派遣要員に係る人件費の一部を負担すること
- ・ IRいしかわ鉄道における新規採用職員等の専門的知識・技術の習得のため、研修受け入れ等について最大限の協力を行うこと

6 利活用促進

基本方針

沿線人口の減少が見込まれる中、利用者の増加を図るため、関係市町や地域住民、関係事業者と連携して、利活用促進とマイレール意識の醸成につながる方策を検討する。

<参考：金沢以東区間での取り組み>

○地域と連携した主な取り組み

・パークアンドライドの推進

IRと沿線市町（金沢市・津幡町）が駅周辺に駐車場を整備

・駅を活用したイベント等の開催

駅でのイベント開催など地域と連携した取り組みを実施

例：駅での野菜市、駅周辺マップの作成、鉄道フェスタの開催等



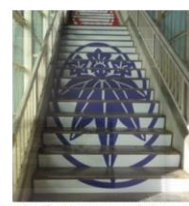
東金沢駅 野菜市



森本駅 周辺マップの作成



津幡駅 鉄道フェスタ



倶利伽羅駅 階段アート

○関係事業者と連携した主な取り組み

・企画きっぷの販売

例：IR・あいの風1日フリーきっぷ

IRいしかわ鉄道とあいの風とやま鉄道が連携

例：北陸トライアングルルートきっぷ

IRいしかわ鉄道、あいの風とやま鉄道、JR西日本とのと鉄道が連携

○IRいしかわ鉄道独自の主な取り組み

・イベント等にあわせた臨時列車の運行

百万石まつり（百万石まつり号）、風と緑の楽都音楽祭（IR音楽祭号）など

・お客さまカウンターの設置

定期券、企画きっぷの販売、運転状況案内、沿線情報の提供

・サポーター制度（いしてつ愛あーるクラブ）

会員数：1,079名 ※2019(R1)年9月30日現在